

令和3（2021）年度事業報告

公益財団法人阿蘇グリーンストック

一、各事業報告

1 自然保全事業（公1）

【草原保全活動】

（1）野焼き・輪地切り支援活動

地元の高齢化、後継者不足により草原維持が困難となっている牧野への野焼き・輪地切り・輪地焼きの支援活動及び各種研修会に取り組みました。

同時に安全管理について、地元牧野組合にも協力していただき、現場での作業前の注意事項の伝達等、参加者へ周知徹底を行いました。

年間の支援牧野は66牧野で、延べ2,351名のボランティアの参加がありました。実参加者の人数は、企業団体での支援もあり増加傾向にあります。

今回の野焼きでは、延焼による大規模な山林火災が発生し補償問題や延焼防止等の対策が急がれます。

野焼き再開については、南阿蘇村の2カ所（中松牧野（草千里）、下市牧野）で取り組みました。

詳細は下記のとおりです。

① 輪地切り・輪地焼き支援活動期間

- ・実施時期：2021年9月1日～2022年4月3日（3月予定が延期のため4月実施）
- ・実施場所：阿蘇地域市町村 82カ所（48牧野）
- ・派遣人数：延べ1,117名

阿蘇市（舞谷、二塚 他合計23牧野）	延べ518名
南小国町（慈門坊、田の原 他合計7牧野）	延べ112名
高森町（上在、村山 他合計8牧野）	延べ275名
南阿蘇村（なわす、長野 他合計5牧野）	延べ136名
西原村（鳥子、出ノ口 他合計4牧野）	延べ69名
産山村（竹の畑）	7名

② 野焼き支援活動期間

- ・実施時期：2021年5月23日～2022年4月24日（3月予定が延期のため4月実施）

- ・実施場所：阿蘇地域市町村 71カ所（55牧野）

- ・派遣人数：延べ1,234名

阿蘇市（舞谷、二塚 他合計27牧野）	延べ570名
--------------------	--------

南小国町（慈門坊、田の原牧野 他合計 11 牧野）	延べ 234 名
高森町（小倉原、村山牧野 他合計 4 牧野）	延べ 133 名
南阿蘇村（下磧、長野牧野 他合計 6 牧野）	延べ 166 名
小国町（縦木、小藪）	延べ 48 名
西原村（鳥子、大切畑、宮山、日向）	延べ 76 名
産山村（竹の畑）	7 名

（２）研修会の開催等

野焼き・輪地切り支援活動の安全管理のための講習会、研修会等を開催しました。また、ボランティア会員の増員に向けて草原保全活動センターを活用し、コロナ禍の中で予防対策を施しながら研修会を開催してきました。会員登録は 2021 年 3 月末現在 1000 名を超えています。

① 野焼き支援ボランティアリーダー全体会の開催

第 1 回	(2021. 4. 24)	参加者 44 名
第 2 回	(2021. 8. 28)	参加者 40 名
第 3 回	(2021. 12. 18)	参加者 33 名
第 4 回	(2022. 1. 29)	参加者 34 名

② 刈払機安全講習会の開催

第 1 回	(2021. 8. 22)	雨天中止	
第 2 回	(2021. 8. 29)	参加者 31 名	
第 3 回	(2021. 9. 7)	参加者 26 名	
第 4 回	(2021. 9. 11)	参加者 31 名	合計 88 名参加

③ リーダー養成研修会

コロナ禍のため中止

④ 初心者研修会

夏季	(2021. 8. 21)	参加者 38 名	
第 1 回	(2022. 1. 30)	参加者 50 名	
第 2 回	(2022. 2. 5)	参加者 36 名	
第 3 回	(2022. 2. 11)	参加者 47 名	
第 4 回	(2022. 2. 15)	参加者 49 名	
出張研修	(2022. 2. 5)	参加者 12 名	
出張研修	(2022. 2. 27)	参加者 10 名	合計 242 名参加

⑤ 火引き研修会実施牧野（8 年目 通算 40 牧野で実施）

永草牧野	(阿蘇市)
下萩の草牧野	(阿蘇市)
坂の上牧野	(阿蘇市)
瀬田立野牧野	(南阿蘇村)
沢津野牧野	(南阿蘇村)

(3) 活動時のボランティア宿泊支援

活動時のゆたっと村宿泊に関しては低価格（一般ボランティア 1泊 700円＋光熱費）にて提供し、遠方より参加の場合や、ボランティア開始時間が早いため、移動中の自動車事故防止のためにも利用していただけるようしています。今年度はコロナ感染対策のため宿泊人数制限を行い延べ 255 人（昨年比 42 人増）の利用がありました。

【森づくり活動】

水源涵養の森づくり活動については、連携企業・団体の方々と共に、これまで植林してきた広葉樹の森の下草刈りや枝打ち作業等を例年行っています。

3月3日にボランティア5名の参加で、コカ・コーラ水源の森（阿蘇市）で広葉樹（コナラ、モミジ、ヤマザクラ計40本）の捕植作業を行いました。

【普及啓発活動】

野焼き支援活動の情報発信及び草原保全への普及・啓発活動について下記の様に取り組みを行いました。

(1) 阿蘇草原の野焼き活動のための入門セミナーin福岡・野焼き見学会の実施

- ・「草原保全・再生セミナーin福岡市」
- ・実施日 2022年 1月15日（土）福岡市 22名参加
1月16日（日）福岡市 11名参加
- ・実施場所 アクロス福岡（福岡市）
- ・内容
 - ① 草原の機能、草原保全の仕組みの研修のためのセミナー
 - ② 来春の野焼き体験企画を紹介し、参加を募り支え手拡充に繋げる
- ・2月26日（土）町古閑牧野の野焼き見学会に、セミナーを受講された方18名の参加がありボランティア活動への参加を促した。

(2) ASO 草原フェスティバル 2021 の開催

- ・日時 2021年11月6日（土）午前10時～午後2時
- ・場所 草原保全活動センター敷地内及び館内
- ・参加者 約1,500名（内ボランティアスタッフ44名）
- ・内容 コロナ感染対策を施しての開催だったが、天候に恵まれこともあり、地域の皆さんに阿蘇草原保全活動センターについての周知を図り、阿蘇の草原への興味と理解を促すことができた。関係団体と協力連携しながら、阿蘇の草原を切り口とした文化や草原と人々の営みを紹介することができた。また、草原散策ツアー、草泊まりづくり、クラフト体験などの企画、業者出店、抽選会などにより成功裡に終わった。

(3) シンポジウム、フォーラム

① 第13回全国草原サミット・シンポジウム 阿蘇分科会 「阿蘇草原再生、新たなステージへ ～草原の恵みを守るための仕組みづくり～」

開催日：2021年9月26日（日） 13時から15時

会場：阿蘇市草原保全活動センター草原学習館

参加人数：観客数制限20名、ライブ・アーカイブ配信

講演：島谷幸弘（熊本県立大学特別教授）

「阿蘇の草原が有する水源涵養機能がもたらす恩恵」

吉良清一（南阿蘇村長）

「南阿蘇村の草原管理の取り組み」

パネルディスカッション

コーディネーター：坂本正（阿蘇草原再生千年委員会委員長）

パネラー：島谷幸弘（熊本県立大学特別教授）

吉良清一（南阿蘇村長）

市原啓吉（阿蘇市町古閑牧野組合長）

三宅悠介（環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所長）

② 阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議シンポジウム

「阿蘇の世界文化遺産登録を目指して」

開催日：2022年3月9日（水）（2月15日延期により）

会場：阿蘇リゾートグランヴィリオホテル（阿蘇市）

参加人数：無観客、ライブ・アーカイブ配信

基調講演：『世界遺産って何？』世にも不思議な制度に迫る

文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室 文化財調査官 鈴木地平氏

熊本県からの報告：文化遺産登録に向けた取り組みの進捗状況

パネルディスカッション

コーディネーター：坂本 正氏（阿蘇草原千年委員会委員長）

パネラー：

西山徳明氏（北海道大学観光学高等研究センター教授）

松尾新吾氏（九州経済連合会名誉会長）

河村邦比児氏（熊本日新聞社代表取締役社長）

佐藤義興氏（阿蘇郡市世界文化遺産登録事業推進協議会会長）

高橋佳孝氏（阿蘇草原再生協議会会長）

※ 公1の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
活動会員受取会費	1,665,000	野焼き支援ボランティア会費
自然保全事業収益	25,175,867	草原保全システム（1887万）、 県サポータ認証事業（192万）、 世界農業遺産推進協会（50万）、 阿蘇市リバイバルキャンペ

		ーン事業（200万）、希少植物保全（84万）、研修会参加費（24万）季刊誌購読（16万）、幹旋品（51万）、協賛金（8万）、森づくり（5万）
ゆたつと村利用事業収益	153,200	ボランティア活動時の宿泊費
受取補助金等	7,983,252	阿蘇草原再生募金助成金（227万） 大東建託みらい基金（70万）、 多面的機能支払（502万）
受取寄付金	2,950,089	グリーンコープ、熊本トヨタ、松合食品、コカ・コーラいろはすプロジェクト、SYSKEN、G S C、田園空間博物館、村山牧野、杉本建設、いまきん食堂、個人より
雑収入	39,059	
収入合計	37,966,467	

人件費計	17,393,070	
物件費計	30,522,613	
支出合計	47,915,683	

(収入) 37,966,467 円 - (支出) 47,915,683 円 = △9,949,216 円

2 自然体験・農業体験学習事業（公2）

（1）農村体験型修学旅行受入事業（ファームステイ）

子どもたちが一般の農家に民泊し、阿蘇の農村での生活や様々な農業体験を通して農業・農村の大切さを学び、自然や人とのふれあいを大切にした体験企画などで、青少年の健全な育成を目指すことを目的に取り組んでいます。熊本地震後問い合わせ及び実施団

体が少しずつ増えてきていたのですが、コロナ禍により回復の兆しが見えてきません。

阿蘇市、南小国町、南阿蘇村、西原村、高森町の約70軒の受け入れ家庭の方とコロナ感染対策について協議を重ね、引き続き農村民泊及び農業体験学習などの受け入れの準備は進めてきました。今回の実績は下記の1校のみとなっています。

10月9日（土）・10日（日） 2泊5食2体験

九州動物学院（熊本県）49名

（2）環境教育及び農業体験事業

将来の阿蘇を担っていくことになる地元の子供たちをはじめ、都市の子供たち、また高校生、大学生、団体へ、草原トレッキングやクラフト体験などを含め様々な自然・農業体験プログラム等の企画を通じ環境教育について取り組みました。

また、情報館を窓口とした体験プログラムの提供、草原観察、草原データベース作成にも取り組んでいます。

ファームステイ・体験受入実績

令和3年度(2021年度)

	実施日		学校名	都道府県	実数	形態
1	7月13日	火	西大和学園高等学校	奈良県	5	水プロ(草原学習・クラフト体験)
2	10月21日	木	福岡県立筑前高等学校	福岡県	33	水プロ(草原学習・クラフト体験)
3	11月2日	火	育成西中学校	奈良県	17	水プロ(草原学習・クラフト体験)
4	12月1日	水	長崎県立島原高等学校	長崎県	42	水プロ(草原学習・クラフト体験)
5	12月9日	木	長崎県立大村高等学校	長崎県	32	水プロ(草原学習・クラフト体験)
6	12月16日	木	大阪府立成美高等学校	大阪府	12	体験のみ(バウムクーヘン作り)
体験のみ					141	

●体験の受入れは次の通りです。

●地元小学生の草原環境・体験学習は別紙の通りです。(13校、466名受講)

(3) ゆたっと村での体験事業

修学旅行生、地元団体、一般の方などを対象に、ゆたっと村里山交流館の周辺の農地、山林等を利用した里山の暮らしの体験の提供については、コロナ禍により修学旅行などの団体利用、家族などの一般利用がありませんでした。

公2の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
村民受取会費	174,000	村民会費
自然体験・農業体験学習事業収益	1,335,818	民泊・体験受け入れ(70万)、ヒゴタイ基金(65万)、阿蘇市感染対策(3万)
ゆたっと村体験事業収益	150,000	阿蘇市公園管理委託費
寄付金	30,000	
雑収入	108,000	土地賃貸

収入合計	1,797,818	
人件費計	487,516	
物件費計	1,593,576	
支出合計	2,081,092	

(収入) 1,797,818 円 - (支出) 2,081,092 円 = △283,274 円

3 調査・研究事業（公3）

昨年引き続き、草資源の利活用の一つとして茅ぶき屋根材としての茅を利用するために、GS コーポレーションと連携して牧野の茅場及び供給先の調査を進めています。

4年越しの牧野基礎調査を実施し、調査内容について独自に市町村毎にまとめたレポートを各市町村へ渡しています。

公3の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
事業収入	5,509,300	世界農業遺産（49万）、阿蘇市環境共生基金（33万）、県（429万） 希少植物保全（40万）
雑収入		
収入合計	5,509,300	

人件費計	1,727,294	
物件費計	3,820,695	
支出合計	5,547,989	

(収入) 5,509,300 円 - (支出) 5,547,989 円 = △38,689 円

4 あか牛オーナーへのあか牛肉販売事業（収1）

阿蘇の草原を守るためには、阿蘇の草原を利用した畜産業の発展が最も有効な手段となります。独特な事業として阿蘇のあか牛の増頭又は維持に向けた畜産農家への支援のために県内外の方へオーナーへの参加を呼び掛けました。

① あか牛オーナー制度について

2021年度新規契約オーナー数	8名（あか牛 7頭）
2020年度オーナー数	35名（あか牛 36頭）
合計	43名（あか牛 43頭）

受入牧野のエリアに関しては、阿蘇市6牧野、南小国町1牧野、南阿蘇村3牧野高森町5牧野となっています。オーナー代表者会議を年2回開催し、交流会につ

い

ては年2回開催予定でしたがコロナ禍により中止となりました。

② あか牛肉販売について

あか牛オーナー制度（オーナーより1頭につき30万円を預り金扱いとし、30万円を畜産農家へ繁殖牛購入資金として無利子で貸し出す）では、年間6万円を目途にオーナーの申込みに応じてあか牛肉を5年に亘ってお届けするものです。近年はあか牛肉の需要増により阿蘇産の商品が手に入りにくい様子にあります。

収1の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
活動会員受取会費	107,000	オーナー・農家より
事業収益	2,550,000	あか牛肉他の利用
雑収入	128,990	運送費、保冷箱、保冷剤代オーナー負担
収入合計	2,785,990	

人件費計	296,891	
物件費計	2,517,742	貸倒損失10万
支出合計	2,814,633	

（収入）2,678,990円 －（支出）2,814,633円 ＝ △28,643円

5 食事提供及び農産物の販売等事業（収2）

一般の団体や個人のゆたっと村の宿泊利用、あか牛肉の利用普及のためのバーベキューの提供、また、農産物の販売などを行いました。コロナ禍により昨年より利用人数、利用高共に減少しましたが、農産物の売上は少し増えています。

① 宿泊での利用は以下の通りです。

・ 宿泊利用 71人（昨年24人、47人増）

② 農産物の収穫・販売をしました。（昨年18万円の売上、19万円増）

・ 椎茸 ・ 落花生 ・ 栗 ・ ブルーベリー ・ さつまいも ・ 梅 ・ ゆず

収2の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
事業収益	601,259	宿泊・体験（17万）、BBQ（6万）、農産品（37万）
雑収入	11,790	九電賃料、持続化給付金（50万）
収入合計	613,049	

人件費計	129,834	
------	---------	--

物件費計	422,094	
支出合計	551,928	

(収入) 613,049 円 - (支出) 551,928 円 = 61,121 円

6 受託調査事業 (収3)

阿蘇草原再生野草地環境保全計画調査事業（環境省、通称「牧野カルテ」）について、

阿蘇草原再生協議会会員で国立公園内の牧野組合を対象とした環境省による調査事業で、草原文化（草原の活用、地名、希少動植物等の調査）及び草原再生（野焼き作業軽減の為の防火帯整備等の調査）の調査に取り組みました。

今回の調査対象牧野は、永草牧野（阿蘇市）、車帰牧野（阿蘇市）、中郷竹崎牧野（南

阿蘇村）の3牧野で実施しました。平成17年より通算で55牧野の調査を実施しています。

収3の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位: 円)	備考
事業収益	11,990,000	環境省入札
収入合計	11,990,000	

人件費計	5,802,038	
物件費計	5,607,192	
支出合計	11,409,230	

(収入) 11,990,000 円 - (支出) 11,409,230 円 = 580,770 円

7 受託管理事業 (収4)

(1) 事業の内容

環境省の「草原学習館」及び阿蘇市の「草原情報館」の2つの施設管理を受託し、それぞれ下記のような施設概要で、連携して管理運営にあたりました。主には財団で施設、警備、清掃、日常管理、総合窓口、来客者対応、案内、展示物管理、情報提供ホームページ管理等を行ってきました。新型コロナウイルス感染対策として管内の利用人数制限がありました。情報館ではワーケーションの場として利用がされています。

- ・ 草原学習館来館者・利用者数 6,253 人 (昨年 4,897 人 1,356 人増)
- ・ 草原情報館来館者・利用者数 5,561 人 (昨年 5,237 人 324 人増)

(2) 施設の概要

①環境省「草原学習館」

- ・規模：建築面積 806.28 m²、延床面積：684.37 m²
- ・構造：木造平屋建て
- ・機能：レクチャールーム、展示、屋外作業スペース、事務室、トイレ、倉庫
- ・駐車場：普通車 33 台、身障者用 1 台、大型バス 2 台

②阿蘇市「草原情報館」

- ・規模：建築面積 729.48 m²、延床面積：648.07 m²、広場：1,200 m²
- ・構造：木造一部鉄骨造平屋建て
- ・機能：ワークスペース、事務室、オフィス、トイレ、倉庫、駐輪場
- ・駐車場：普通車 71 台、身障者用 2 台、大型バス 2 台

収 4 の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位：円)	備考
受託管理事業収入	8,687,140	草原学習館 (738 万)、草原情報館 (131) 万
収入合計	8,687,140	

人件費計	5,928,504	
物件費計	2,459,740	
支出合計	8,388,244	

(収入) 8,687,140 円 - (支出) 8,388,244 円 = 298,896 円

7 法人会計

月次決算等、会計処理については公認会計士に委託して運営しました。

法人会計の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位：円)	備考
基本財産運用益	400,000	
維持賛助会費	2,857,400	個人会員 67 名 (20 万円) 団体会員 51 企業団体 (266 万円)
雑収入	163,237	講師報酬、費用弁償他
収入合計	3,420,637	

人件費計	642,555	
物件費計	2,142,578	
支出合計	2,785,133	

(収入) 3,420,637 円 - (支出) 2,785,133 円 = 635,504 円

二. 2021 年度収支決算について

(1) 上記のとおり事業全体としての経常利益は下記の通りです。

(収入) 72,770,401 円 - (支出) 81,493,932 円 = △8,723,531 円

※2020 年度公益目的事業会計全体の収支相償判定で 9,715,632 円の剰余が生じた為
2021 年度において同額程度の損失として事業拡大を行いました。

今年度の公益目的事業会計全体では 10,271,179 円の損失であり計画を上回るこ
とができました。

<別紙>

(2) 公益事業比率は、55,544,764 円 ÷ 81,493,932 円 = 68.16%

となります。

<別紙決算報告書参照>